

ビジネス活用視点での iCD 「AI タスクディクショナリ」の策定

一般社団法人 iCD 協会（東京都千代田区、理事長：金 修）は、ビジネスでの競争優位性の獲得に向けてビジネスニーズにマッチした AI をいかに実装するかに重点を置き、iCD のなかに新たに AI タスクディクショナリを策定しました。

1. ビジネスと AI 活用

近年、AI の進化は目覚ましく、画像認識、自然言語処理、予測、制御など様々な分野に応用されています。これまで人が行っていた判断を AI で実現し、生産性向上やコスト削減などで成果をあげるなど、AI はビジネスの成長、発展に欠くことのできない存在になっています。

2. AI 活用に取り組む際の課題

企業は AI の導入検討や開発に取り組んでいますが、最初から順調に開発が進む訳ではなく、概念実証（PoC：Proof of Concept）と呼ばれる段階を何度か乗り越えて成果に結びつきます。成果に至る過程にはいくつかの壁（リスク）があり、その壁を乗り越えるための事前準備、実施ステップや方法論がありますが、AI に取り組み始めたばかりの企業は最初からそれらを十分に理解して AI の導入プロジェクトを準備し、リスクを予見し、推進していくのはなかなか難しいというのが現実となっています。

3. AI タスクディクショナリの策定

このような認識のもと、iCD 協会では 2019 年よりビジネスへの活用を前提として AI タスクディクショナリの策定作業に取り組んで参りましたが、この度、「DL（Deep Learning）を活用した画像認識」の領域についてタスクを策定しました。これにより iCD に大分類として AI が追加されました。

(1). 対象タスク：「DL による画像認識」

(2). 取りまとめ方針：ビジネスサイドの視点を重視し、実践知を盛り込み、プロジェクトマネジメントの力点の置き方（ユーザーとの合意形成など AI の作り込み以外）も充実させること。

(3). 本タスクを活用する対象者のイメージ等（ペルソナ設定）

- ① 上層部から AI 開発の指示があり、
- ② AI 活用の可否を含めて、プロジェクトを立ち上げる必要が出てきた、
- ③ システム開発の経験はあるが、AI 開発の経験がない中堅社員。

4. 本タスクの検討メンバーと人材育成のための研修プログラム

このタスクの検討にあたっては、次のような企業の皆様にご参画いただきました。

- ・株式会社オープンストリーム
- ・電源開発株式会社
- ・スキルアップ AI 株式会社
- ・大日本印刷株式会社

- ・ブレインズコンサルティング株式会社
- ・三菱ケミカルシステム株式会社
- ・三菱電機株式会社

など（アイウエオ順で記載）

（今後は、さらに検討メンバーを募り、活用範囲や対象分野の充実を図っていきますので、ご関心のある方は iCD 協会事務局までお問合せください）

また、これらのタスクを実行するためには、プロジェクトマネジメント、データサイエンス、インフラ構築、コーディングなど各々の役割の人材がチームとなって取り組む必要があります。各役割のメンバーには専門性が求められるため、必要なスキル、ノウハウを備えた人材を確保・育成することが重要です。このため、今回の検討メンバー企業のスキルアップ AI 株式会社より本タスクにマッチした研修プログラムの提供も併せて行ってまいります。

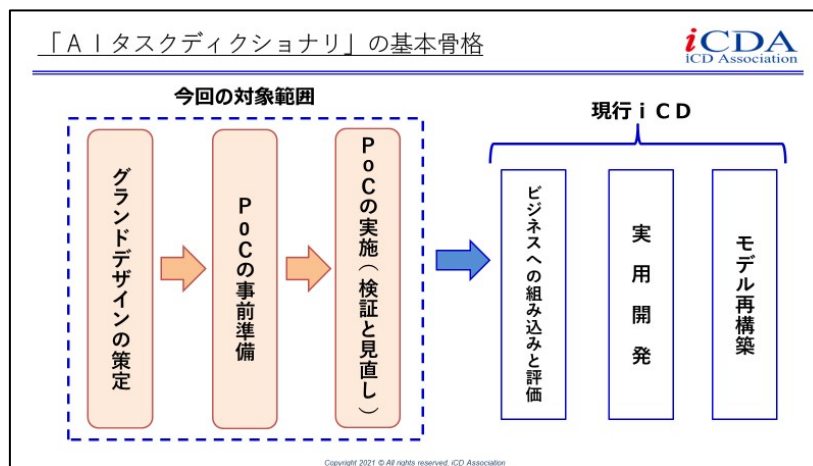
※AI タスクに係る研修に関するお問い合わせ：

スキルアップ AI 株式会社

担当：広報担当

MAIL：info@skillupai.com

■AI タスクディクショナリの概要



A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	
iCD協会策定 AI【DL(画像認識)】タスクディクショナリ																		
1																		
2	大分類	中分類	小分類															評価項目
3	A I	AI【DL(画像認識)】> グランドデザインの策定																
4	① 目標の明確化																	
5	A ステークホルダの特定																	
6	1 関係先をリストアップする。																	
7	2 関係先毎に関係性を明確化する。																	
8	3 ユーザ部門を特定する。																	
9																		
10	B 提供価値の明確化																	
11	1 解決すべき課題を定義する。																	
12	2 AI導入により期待できる成果を設定する。																	
13	3 期待成果の達成が、課題解決につながるかを検討する。																	
14																		
15	C AI活用におけるビジネス上の有意性確認																	
16	1 AI以外の解決策を検討する。																	
17	2 AIを活用した解決策を検討する。																	
18	3 AIを活用した解決策との比較を行う。																	
19																		
20	② プロジェクト実施体制の設置																	
21	A プロジェクト実施体制の関係組織の決定																	
22	1 本案件の実施に関係する組織を決定し、各組織の責任者を選定する。																	
23	2 関係する組織をプロジェクト実施体制に組織する。																	
24																		
25	B プロジェクト実施体制の責任者の決定																	
26	1 当案件に責任と権限を持つ責任者を決定する。																	

■AI タスクディクショナリの評価（会員企業による適合度調査）

集計サマリ		
会員企業による調査：AIタスクディクショナリの全タスクを実際の開発と比較した際の適合度		
回答者層	リーダー層（プロジェクトマネージャー、プロダクトオーナー等）	
回答の形式	アンケート形式	
適合度	非常に高かった（全タスクのうち、適合=97.2%、ややFit=2.7%、ややGap=0.1%、不適合=0%）	
頂いたご意見	取組について	<ul style="list-style-type: none"> ・このように体系化されたものが欲しかった。（初めからこのようなものがあれば苦労しなかったのに…） ・自分の見解・見識の偏りを見直す機会になった。（自己流で進めていたことに気づいた）
	内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・これらを基本線に足し引きすることで実案件で運用できると思う。 ・案件進行がうまくいくときはこれで良いと思う。 ・案件が難航したときは、このままでは不足するかもしれない。 ・もっと目を粗くした方が良い。（網羅性が高いため、利用者が頼り過ぎにならないか心配）
	表現（見せ方）について	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なタスクとして、基礎の骨組みを示すのに丁度良いと思う。 ・トライ&エラー等、タスクがグループする辺りを表現できるとなお良い。

■一般社団法人 iCD 協会

本社所在地：〒101-0046 東京都千代田区神田多町 2-2-22 千代田ビル 6F

理事長：金 修

設立：2018年2月

事業概要：独立行政法人情報処理推進機構(IPA)が公開した「iCD (i コンピテンシ ディクショナリ)」に関する調査及び研究、普及啓発及び指導、情報の収集及び提供等

URL：<https://www.icda.or.jp/>

当リリースに関するお問い合わせ先

一般社団法人 iCD 協会

担当：広報担当

Mail：icda-info@icda.or.jp

Tel：03-4530-6226